2013年10月作成(第１版)

日本標準商品分類番号
872343

承認番号	22000AMX00312
薬価収載	2008年６月
販売開始	2013年11月
再評価結果	1982年１月

貯　　法：室温保存
使用期限：３年（ラベルに表示の使用期限を参照すること。）

制酸剤

乾燥水酸化アルミニウムゲル原末「マルイシ」

日本薬局方　乾燥水酸化アルミニウムゲル

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

透析療法を受けている患者［長期投与により**アルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血**等があらわれることがある。］

【組成・性状】

１．組　成

本品　１g中
日局　乾燥水酸化アルミニウムゲル　１g　含有。

２．性　状

白色の無晶性の粉末で、におい及び味はない。
水、エタノール(95)又はジエチルエーテルにほとんど溶けない。
本品は希塩酸又は水酸化ナトリウム試液に大部分溶ける。

【効能・効果】

○下記疾患における制酸作用と症状の改善
　胃・十二指腸潰瘍、胃炎（急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む)、上部消化管機能異常(神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む)
○尿中燐排泄増加に伴う尿路結石の発生予防

【用法・用量】

乾燥水酸化アルミニウムゲルとして、通常成人１日１～３gを数回に分割経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】

１．慎重投与（次の患者には慎重に投与すること）

(1) リン酸塩の欠乏している患者［アルミニウムは消化管内でリン酸塩と結合し、その吸収を阻害する。］

(2) 腎障害のある患者［長期投与によりアルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血等があらわれるおそれがあるので、定期的に血中アルミニウム、リン、カルシウム、アルカリフォスファターゼ等の測定を行うこと。］

２．相互作用

併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
クエン酸製剤（クエン酸カリウム、クエン酸ナトリウム等）	血中アルミニウム濃度が上昇することがあるので、同時に服用させないなど注意すること。	キレートを形成し、アルミニウムの吸収が促進されると考えられる。
血清カリウム抑制イオン交換樹脂（ポリスチレンスルホン酸カルシウム、ポリスチレンスルホン酸ナトリウム）	血清カリウム抑制イオン交換樹脂の効果が減弱するおそれがある。	アルミニウムイオンと非選択的に交換すると考えられる。
テトラサイクリン系抗生物質、ニューキノロン系抗菌剤、イソニアジド、ジギタリス製剤、フェニトイン、フェノチアジン誘導体、β-遮断剤、非ステロイド系解熱消炎鎮痛剤等	同時に服用することにより、これら併用薬剤の吸収を遅延又は阻害するおそれがある。この作用は薬剤の服用時間をずらすことにより、弱まるとの報告がある。	本剤が併用薬剤とキレートを形成又は吸着し、消化管からの吸収を遅延又は阻害する。
ペニシラミン	ペニシラミンの効果が減弱するおそれがある。	同時投与した場合、ペニシラミンの吸収率が低下する。
ミコフェノール酸モフェチル	ミコフェノール酸モフェチルの作用が減弱するおそれがある。	併用により、ミコフェノール酸モフェチルの吸収が減少すると考えられる。
甲状腺ホルモン剤（レボチロキシンナトリウム等）	同時に服用することにより、これら併用薬剤の吸収を遅延又は阻害することがある。これらの作用は薬剤の服用時間をずらすことにより、弱まると考えられる。	消化管内で本剤と吸着することにより、これらの薬剤の吸収が阻害される。
胆汁酸製剤（ウルソデスオキシコール酸、ケノデオキシコール酸）		
キニジン等	併用薬剤の排泄が遅延することが知られている。	尿のpH上昇による。

３．副作用

本剤は使用成績調査等の副作用発現頻度が明確となる調査を実施していない。

	頻度不明
消化器[注1)]	便秘、悪心・嘔吐等
長期投与[注2)]	アルミニウム脳症、アルミニウム骨症、貧血

注１）このような症状があらわれた場合には、減量、休薬又は緩下剤の併用等の適切な処置を行うこと。
注２）このような症状が発現することがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には、減量又は休薬等の適切な処置を行うこと。

４．高齢者への投与

一般に高齢者では生理機能が低下しているので用量に注意すること。

〈裏面へ〉

【薬 効 薬 理】[1),2)]

1．制酸作用

胃酸を中和することにより制酸作用を示すが、炭酸水素ナトリウムのように炭酸ガスを発生せず、二次的な胃酸分泌は少ない。

2．胃粘膜保護作用

胃内でゲル状となり、胃粘膜に対し被覆保護・吸着作用をあらわす。また、粘液分泌も引き起こし、粘膜抵抗性を高める。

3．収斂作用

胃内の塩酸と反応して$AlCl_3$となり収斂作用を示す。Al^{3+}の収斂作用はCa^{2+}やMg^{2+}より強い。

【包　　装】

500g

【主 要 文 献】

1）熊谷　洋 他：臨床薬理学大系，第 8 巻，255（1972）

2）高木敬次郎 他：薬物学，396（1984）

【文献請求先】

ニプロ株式会社　医薬品情報室

〒531-8510　大阪市北区本庄西3丁目9番3号

0120-226-898

FAX 06-6375-0177

NIPRO

販　売　ニプロ株式会社
大阪市北区本庄西3丁目9番3号

製造販売元
丸石製薬株式会社
大阪市鶴見区今津中2-4-2